

「OECD 日本加盟 50 年記念シンポジウム」

中央大学 3 年 OECD 学生大使 前田裕介

2014 年 4 月 9 日に日経ホールで、「OECD 日本加盟 50 年記念シンポジウム」が行われた。日本が OECD に加盟したのは今からちょうど 50 年前（1964 年）であったが、この年には日本ではもう一つ大きな出来事があった。東京オリンピックの開催である。OECD への加盟と東京オリンピックの開催が同じ年に行われたのだ。まさに、50 年前は日本にとって戦後の著しい復興を世界に対して示した記念すべき年であったと言える。それから 50 年間、日本は世界の中で有数の先進国の一つとして走り続けてきた一方で、世界の問題の解決に果たす日本の役割は大きくなった。今回の「OECD 日本加盟 50 年記念シンポジウム」では、世界が抱える様々な問題について議論された。

プログラムは大きく 3 つの異なる議題のパネルディスカッションは、

- ①「50 年後の世界～今取り組むべき問題は何か～」
- ②「OECD と東南アジア～橋渡し役としての日本～」
- ③「しなやかで強靱（レジリエント）な経済の構築に向けて」で構成された、そのうちの第一部、第二部に参加した。

① 50 年後の世界～今取り組むべき問題は何か～

第一部では、50 年後の世界がどのように変わるのか、3 つの大きな変化を提示。労働力、教育と労働市場、財政が変化すると予想し議論がなされた。労働力は日本において少子化から、著しく低下することが予想される。解決策としては女性の社会進出があげられる。しかし、育児や介護を行うのが主に女性の役割とされ、夫が稼ぎ妻は家を守るという考え方が一般的な日本において解決すべき課題は山積みであるように思われる。国家が積極的に女性の家庭での負担を減らす政策、例えば育児休暇を取りやすくする政策などを推し進める必要があると感じた。また、教育と労働市場については興味深い内容が議論された。現在の日本に一般的な部活動などの体育会系な考え方よりも、家族を大切にする考え方が一般化されるというのだ。部活に割く時間よりも家族を大切にすべきという考え方が正しいといった議論がなされており、これまで自ら考えたことのない未来予測に触れて新鮮であった。

② 「OECD と東南アジア～橋渡し役としての日本～」

第二部では世界の中での日本の立ち位置を再確認することができた。そしてなにより興味深かったのは、アジアの他の国々がどのように成長していこうとしているのかが分かったことである。①グローバル化による資本の流出②先進国の罨③生態系の崩壊といった成長するための課題にいかに対応していくか、発展途上国のみではこれらの課題を解決するのは難しく、OECD の協力は不可欠であるとした。世界には発展途上国を食ってやろうと考える国が存在していることを改めて実感し、日本はそういった罨から途上国を守る役割を果たしていくべきである。

② まとめ

今回のシンポジウムは、様々な部門の有識者を招いた議論となった。そのため、OECD の側の意見だけでなく、途上国側の意見も聞くことができ多様な考え方、物の見方を養うことができた。そして、何よりも興味深かったのは、「OECD 全体における日本の立ち位置」である。今後も OECD が世界最大のシンクタンクであるためにはアジアへ深く関わって行く必要があり、そのために日本はアジアと OECD の架け橋にならなくてはならないのである。しかし、議論のレベルも高く、自分の勉強不足を実感した。これからの勉強にこのシンポジウムで学んだことを活かしていきたい。

・日時

2014 年 4 月 9 日（水）9：00～15：00

・場所

日経ホール （東京都千代田区大手町 1-3-7 日経ビル 3 階）

・プログラム

基調講演 日本政府高官 安倍晋三内閣総理大臣

アンヘル・グリア氏 （OECD 事務総長）

第一部：パネルディスカッション「50 年後の世界～今取り組むべき問題は何か～」

モデレーター 岩田一政氏 （日本経済研究センター理事長）

パネリスト アンヘル・グリア氏 （OECD 事務総長）

佐々木かをり氏 （株式会社イー・ウーマン代表取締役社長）

キャシー・松井氏 （ゴールドマン・サックス証券株式会社ディレクター）

第二部：パネルディスカッション「OECD と東南アジア～橋渡し役としての日本～」

モデレーター 白石隆氏 （政策研究大学院大学学長）

パネリスト イブ・ルテルム氏 （OECD 事務次長）

サン・ルイン氏 （ミャンマー連邦共和国 国家計画・経済開発副大臣）

カエタノ・パデランガ氏 （フィリピン共和国 開発運営委員会委員長）

実哲也氏 （日本経済新聞・論説副委員長）

第三部：パネルディスカッション「しなやかで強靱（レジリエント）な経済の構築に向けて」

モデレーター 野上義二氏 （日本国際問題研究所理事長）

パネリスト ガブリエラ・ラモス氏 （OECD 事務総長首席補佐-G20 シェルバ）

ヤン・スギル氏 （国連持続可能な開発解決法ネットワーク韓国常駐代表）

吉川洋氏 （東京大学大学院経済学研究科教授）

フィリップ・メスメール氏 （ル・モンド東京特派員）